

博士課程における外国人留学生の受け入れに関する調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ライアン, 優子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007691

博士課程における外国人留学生の受け入れに関する調査

ライアン 優子

【要旨】

本研究では、日本の一地方国立大学の博士課程における外国人留学生の受け入れに関する調査結果をもとに、留学生の支援ニーズや受け入れ態勢の整備について考察をしている。調査結果から、学生のリクルーティングにおいては、教員、既に在籍している留学生のネットワークと、ウェブサイトにおける研究に関する詳細な情報の整備が効果を発揮することが確認された。また、博士課程における留学生の留学・研究生活の満足度は全般的に高いが、日本人学生とのコミュニケーションと英語による情報の不足に難しさを感じている者が多いという現状が明らかになった。外国人留学生、日本人学生双方の語学・コミュニケーション能力を向上させる教育機会と、学生間の交流機会の促進、大学全体の国際化への取り組みを通じた様々な情報や学生支援の英語化の必要性が示唆された。

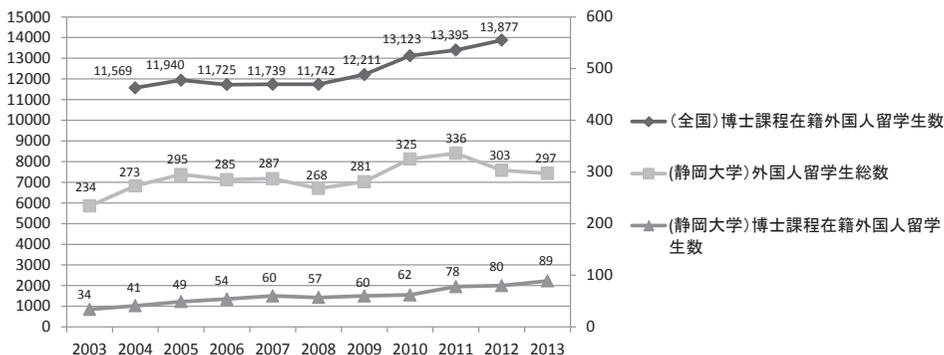
【キーワード】外国人留学生、高等教育の国際化、博士課程、キャリア支援

1. はじめに

国際的な人材獲得競争が激化する中、安倍政権は、外国人留学生の受け入れを成長戦略の一環と捉えている。文部科学省高等教育局の戦略的な留学生交流の推進に関する検討会は、2013年8月に「世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略」(中間まとめ)を公表し、工学、医療、法学、農学の4分野を優先し、ASEANをはじめとした9地域からの留学生受入の重点化をするという方向性を示している。このような動きは、2008年に掲げられた留学生30万人計画以来の受入留学生の量的拡大の流れの中、質もしくは内容的な側面ともいえる、重点的受入地域や専門分野等に注目をしている点において、留学生政策の新たな展開を示していると言える。

日本学生支援機構の留学生調査によると、全国の外国人留学生受入は、過去15年間において、基本的に増加傾向である。博士課程に在籍する留学生数も同様に増加しており(図1)、留学生数全体が東日本大震災後に、2011-2012年と2年連続で減少したのに対し、博士課程在籍外国人留学生数は増加している。2012年度は全国で13,877名の博士留学生が在籍している。これは全博士課程在籍者数(74,320名)の18.6%、全留学者数(138,075名)においては10%を占める。

図1-1 全国及び静岡大学の博士課程在籍留学生数



日本学生支援機構「留学生調査」結果、静岡大学概要（平成16年～25年）に基づき作成

1.1 静岡大学における博士課程の外国人留学生

静岡大学の博士課程在籍外国人留学生数は、2003年から2012年の10年間、ほぼ一貫して増加し、2.6倍となっている（図1）。同期間の留学生全体の増加が69名である中、博士課程在籍外国人留学生の増加は46名であり、博士課程における留学生数の増加が、大学の留学生総数を押し上げる主要因となっている。数の増加と比例して、博士課程に占める外国人留学生の割合が高まり、2013年度には農学研究科、創造大学院の博士課程在籍者223名の内89名（39%）が外国人正規留学生となっている（国立大学法人静岡大学概要2013）。静岡大学の学士課程の在籍者8,816名の内106名（1.2%）が外国人正規留学生であり、修士課程の在籍者1,257名の内58名（4%）が外国人正規留学生であることと比べると、博士課程では外国人留学生の割合が際立って大きいことがわかる。留学生数を国際化の一指標とするのであれば、静岡大学における国際化は、学士・修士課程に比べて博士課程において著しく進展している。しかしこれは静岡大学に特定の現象ではない。全国的には、前述のとおり、全博士課程在籍者数（74,320名）の18.6%が外国人留学生である。国立大学協会（2013）は、「国立大学における教育の国際化の更なる推進について」の提言の中で、2012年時点で約5.8%である受入留学生の割合を「2020年までに学部と大学院合わせて10%にする」という数値目標を掲げているが、博士課程単体で見れば既に目標値を超えている。『博士課程修了者の進路実態に関する調査研究報告書』（株式会社日本総合研究所2011）は、博士課程の留学生数が多いことを踏まえて、調査結果を一般学生、社会人学生、留学生に分けて分析している。博士課程における留学生の内訳は、「国公立大学別に比較すると、国立大学の留学生の割合が19.3%と他（公立、私立大学）より高く」、分野別には、農学（29.4%）、芸術（24.7%）、工学（23.9%）において留学生の割合が高い。

このように博士課程における外国人留学生は、高等教育の国際化において存在感を増している。今後の留学生政策は、受け入れた学生が日本の成長に寄与する人材としてどう機能するかという戦略的課題に取り組んでいくのに応じて、大学も優秀な外国人留学生の受け入れ、育成及び職業への接続に関して、効果的な施策の実行が求められる。本研究は、静岡大学の博士課程在籍外国人留学生に焦点をあてた調査を通して、彼らの受け入れ態勢

を検討し、戦略的な受け入れ策に関する示唆を得ることを目的としている。

2. 調査概要

◇ 調査目的：

博士課程における外国人留学生の受け入れ態勢に関する現状・ニーズを把握し、今後の態勢の充実化を図る指針とすること。

◇ 調査方法：オンラインアンケート形式（無記名）

◇ 使用言語：英語、日本語（併記）

◇ 調査時期：2013年6月～7月

◇ 対象：国立大学法人静岡大学の

- 博士課程の留学生（2013年度5月：89名）

- 外国籍のポストドクター

* アンケート調査は上記の他に、外国人研究者、博士課程へ進学を希望する修士課程の外国人留学生も対象に含んで実施しているが、本稿では、博士課程在籍者とポストドクターのデータのみを分析対象としている。

◇ 配布：対象者の所属部局による調査案内紙の配布、調査案内メールの配信

◇ 調査サンプル：

有効回答数：22名

国籍：中国7名、バングラデシュ4名、インドネシア2名、マレーシア2名、ルーマニア2名、インド2名、フィリピン1名、ポーランド1名、他1名

性別：男性15名、女性7名

平均年齢：30.86歳

在籍形態：博士課程17名、ポストドク5名（うち4名が静岡大学博士課程修了者）

◇ 特記事項

- 調査サンプル数に限りがあるが、サンプル学生の国籍、国費／私費留学の割合等は、全博士課程外国人留学生の内訳を反映したものとなっている。

3. 調査結果

下記の点に基づき、調査結果をまとめ、今後の大学の対応について考察をする。

3. 1 大学の選択基準

3. 2 満足度、改善点

3. 3 日本語能力とキャリア展望

3. 4 支援ニーズ

3. 1 大学の選択基準

本項目では、大学選択に関する質問への回答をまとめ、静岡大学が、博士課程へ外国人留学生の受け入れを強化するには、どのような策が有効かについて考察する。

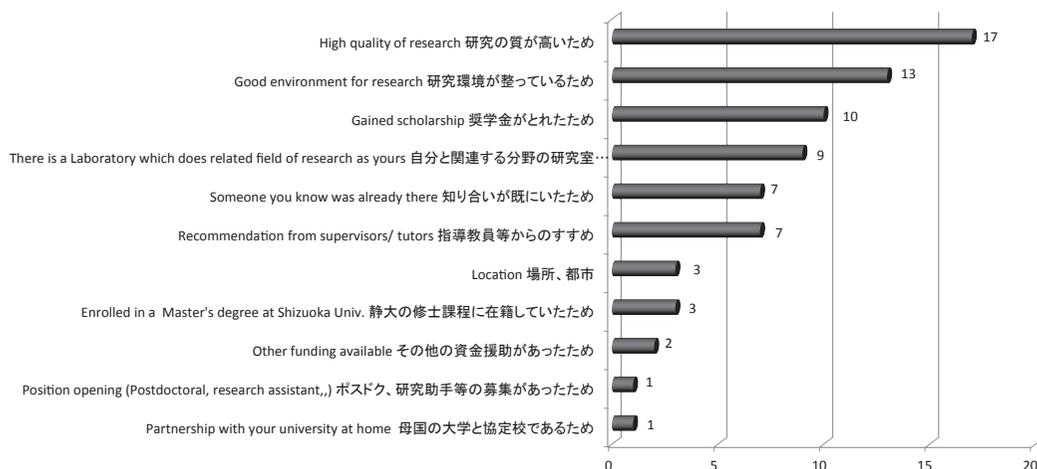
3. 1. 1 大学の選択基準に関する調査結果

表3. 1-1 留学、研究拠点を定める時に重要視した情報は何か。(複数回答可) * Q22参照

回答者数 22	回答数	回答率
Quality of research 研究の質	19	86.4%
Good academic/research supervisor/fellow 良い指導教員／研究仲間がいるか	19	86.4%
Research environment 研究環境	14	63.6%
Research funding 研究助成金	9	40.9%
Living environment/Condition 生活環境	9	40.9%
Good career path after graduation 卒業後の進路、就職に有利かどうか	9	40.9%
Know someone at the University 知人があるか	4	18.2%
Ranking of university 大学のランキング	3	13.6%
DDP or not ダブルディグリープログラムがあるかどうか	2	9.1%
Partner University 協定校	0	0.0%

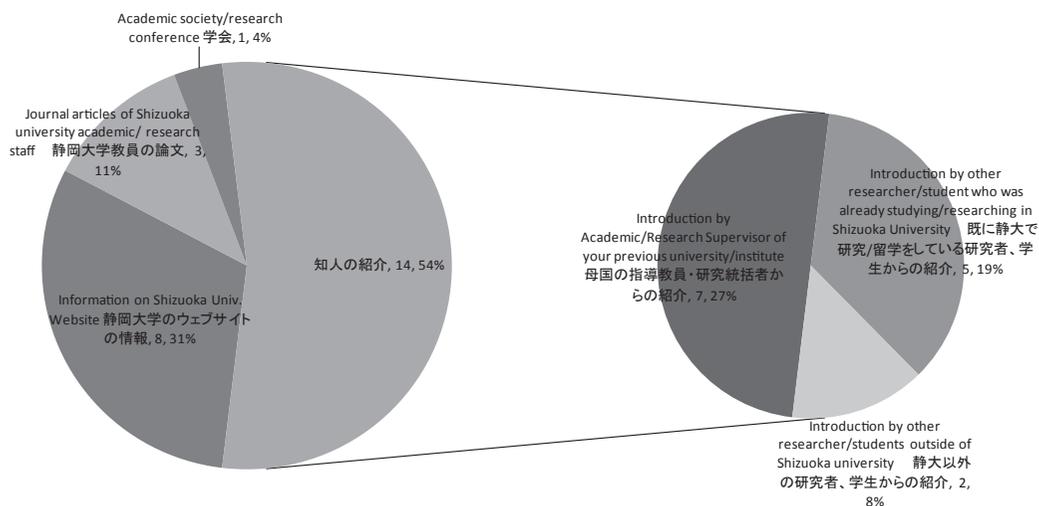
留学、研究拠点を定める際に、19名（86.4%）が「研究の質」、「良い指導教員」を重要視している。次に重要視されたのは「研究環境」で、その後に「研究助成金」、「生活環境」、「卒業後の進路」を4割程度が重要視している。また、4名（18.2%）の学生が、「知人があるか」を研究拠点選びにおいて重要視したと答えている。知人があることを重要視したものの全員が、研究の質、良い研究指導者の有無を重視するとも答えていることから、これらの条件は、判断基準として補完するものであると考えられる。「大学のランキング」を重要視したものは3名（13.6%）にとどまっており、日本の大学とその研究活動に関するランキング情報が限定的であることが、影響しているのではないかと推察される。

図3. 1-1 静岡大学を選んだ理由は何ですか。(複数回答可) Why did you choose Shizuoka University? (Q24参照)



本質問において最も回答が多いのは、研究の質、環境等に関連する項目である。他の設問「日本を研究の地にした理由は何ですか。」(Q23参照)に対して、20名(90.9%)が「研究レベルの高さ」を選んでいることから、日本の研究レベルに対する高い信頼度も背景にある。次に多いのは、「奨学金がとれたため」(10名)である。「日本での研究生活資金における私費、奨学金、助成金等の割合(%)」(Q10参照)を聞いた質問への回答をみると、全留学費を奨学金もしくは助成金で賄うものは15名(75%：回答者20名中)で、私費のみで賄うものは4名(20%)であった。また、国立大学法人静岡大学概要(2013)によると、博士課程の外国人留学生89名のうち、64名(73%)が国費留学生である。これらのデータと回答結果から、大半の学生にとって奨学金が大学選択時の必要条件のひとつであることが確認できる。他に静岡大学を選んだ理由として回答者が多かったのが、指導教員等からのすすめ7名(27%)、知り合いの在籍7名(27%)である。静岡大学を選んだ多くの留学生にとって、既知の人脈の導きが、影響力を持っていたことがわかる。

図3. 1-2 あなたが指導教員を見つけた/知り合ったきっかけは何ですか？(複数回答可)
* Q25参照



指導教員/共同研究者を見つけた/知り合ったきっかけで最も多いのは、知人の紹介で、その内訳は、「母国の研究指導者等からの紹介」(7名)、「静大で研究/留学をしている研究者、学生からの紹介」(5名)、「静大以外の研究者、学生からの紹介」(2名)となっている。次に多いのが「静岡大学のウェブサイトの情報」(8名)である。これは、自分の専門分野の研究指導教員を探している際に、静岡大学のウェブサイトから該当者を見つけたという経緯が推測される。また、「静岡大学教員の論文」がきっかけで指導教員を知ったと回答するものが3名、「学会」を通して面識を持ったものが1名おり、教員の国際的な研究活動が、博士課程における外国人留学生のリクルートに、ある程度つながっていることが分かる。

3. 1. 2 外国人留学生の博士課程へのリクルーティングに関する考察

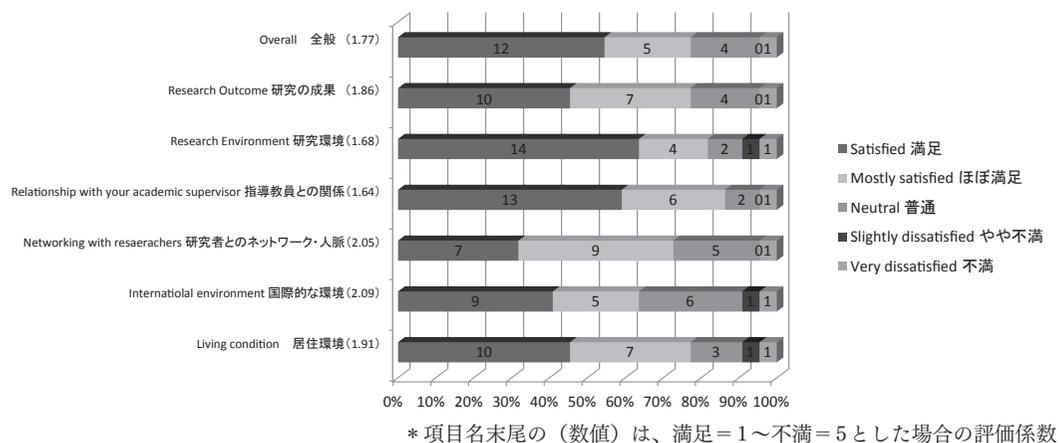
上記の回答結果において、博士課程に在籍する外国人留学生が最も重要視しているのが研究の質や環境であった。より良く多くの学生を博士課程に受け入れる上では、大学の研究内容、施設、資金等に関する情報をできるだけ具体的に発信することが重要である。静岡大学の博士課程のウェブサイトは、英語による研究に関する情報がそろう、動画等のコンテンツの整備も継続的に行われている。一方で、研究環境に関する詳細な情報の多くは、各研究室が運営するウェブサイトに掲載されているが、これらのサイトの英語での情報量には差が見られる。今後、研究室のウェブサイトの英語の情報の充実に対して、大学が支援を検討することも有効であろう。また、多くの博士課程の外国人留学生が、実際の大学選び、指導教員探しにおいて、知人からの情報を活用している。日本の大学に関するランキング情報等、海外で得られる日本の大学の情報に限りがある中で、知人からの情報を信頼する傾向があるのではないかと考えられる。今後、受け入れを促進するには、既に在籍している外国人留学生や、教員の共同研究者を通じたリクルート活動を強化することが、堅実な手立ての一つであると考えられる。

3. 2 満足度、改善点

本項目では、博士課程外国人留学生の留学に関する満足度と改善点についての調査結果をまとめ、今後の環境整備において、どのような対策が講じられるかについて考察をする。

3. 2. 1 満足度、改善点に関する調査結果

図3. 2-1 静岡大学での生活・研究の満足度を下記の観点から評価してください。(Q26参照)

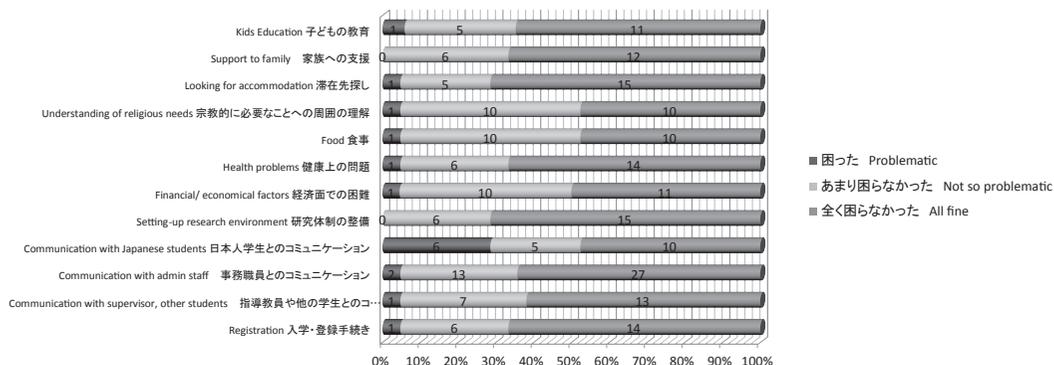


全項目において、60%以上の学生が「満足」もしくは「ほぼ満足」と評価をしている。特に「指導教員との関係」と「研究環境」に関する評価が高い。続いての「上記で答えた項目の中から満足度の高いもの、低いものに関して、具体的な理由を教えてください。」という質問に関しては、下記のようなコメントがあった。(英語の原文を日本語文に要約)

表3. 2-1 * Q28参照

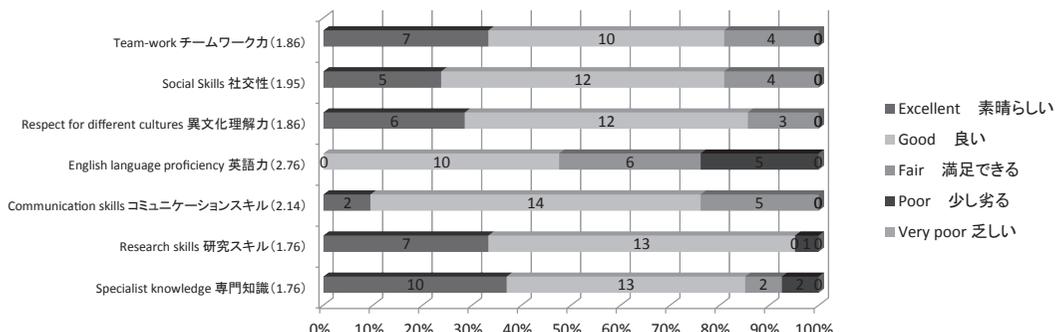
<p>■主な満足の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生、研究室の学生達はとても親切。研究環境もよく、毎日の研究生生活が楽しい。 研究環境が良く、技術が高く、指導教員も良い。 求めているものに手が届く環境。指導教員はとても面倒見が良い。 きちんと練られた研究手法で、設備の要件に合わせて効率的に研究が実施されている。 指導教員はいつでもディスカッションに応じてくれて、研究活動を支援してくれる。 設備が良く、技術的に重要性の高い研究に従事できる。母国に帰ってからの研究につながる事ができている。 浜松は安全で便利な街でとても住みやすい。
<p>■主な不満の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な学会誌への年間の出版目標数値がなく、研究活動のみをしている。 日本人学生の英語でのコミュニケーション力の不足

図3. 2-2 静岡大学入学時に困ったことは何ですか？* Q17参照



全般的にいずれの項目に関しても「困った」と回答する者がほとんどいなかった。「日本における総居住期間」(Q4参照)を聞いた質問において、回答者のうちの13名(59%)が、日本での滞在期間を3年未満としており、博士課程入学時に渡日したケースが多いが、入学時からあまり問題がなく、留学生生活を始められているようである。相対的に、困難を感じた留学生が多かったのが、日本人学生とのコミュニケーションである。前出の表3. 2-1においても、不満の理由として同様の内容のコメントがある

図3. 2-3 研究室の日本人大学院生に関する評価を教えてください。* Q31参照



* 項目名末尾の（数値）は、満足 = 1 ~ 不満 = 5とした場合の評価係数

全般的に「良い」以上の評価が占める中で、評価の低い項目が英語力とコミュニケーションスキルである。静岡大学に来たことに関する最も良かったことと悪かったことについて聞いた記述式の質問（Q28参照）の回答においては、「最も良かったこと」として、研究の環境、資金、質、支援の充実に関して21件のコメントがあった。「最も悪かったこと」としては、奨学金、生活費等の不足、寮がキャンパスから遠い、地震、将来のキャリア展望への不安などに加えて、スタッフ、日本人学生の英語レベル、事務文書のほとんどが日本語であること等のコメントがあった。「最も悪かったこと」の中の、日本人学生の英語レベルに関するコメントについては、表3. 2-1、及び、図3. 2-2の結果において、博士課程在籍外国人留学生が入学時に困難を感じたのが、日本人学生とのコミュニケーションであったと回答していることと整合している。

表3. 2-2 より良く多くの研究者を海外から招くのに効果的だと思うのは次のうちのどれですか。（複数回答可）* Q29参照

	回答数	回答率
More information on research activities in Shizuoka Univ. 静大における研究活動の情報提供	16	72.7%
More information on research condition/environment in Shizuoka Univ. 静大における研究条件、環境に関する具体的な情報提供	16	72.7%
More information about funds for research 研究資金に関する情報提供	16	72.7%
More involvement of Shizuoka Univ.academics to join conference/ project overseas 静大教員の海外での学会や研究プロジェクトへの参加	12	54.5%
Career path provided for Postdoctoral ポスドクのキャリアパス	12	54.5%
Care for the researcher's family (Registration, school,) 研究者の家族のサポート	10	45.5%
Information on the links with industries 産学連携の情報	7	31.8%
Others その他	4	18.2%

その他の回答の具体例：研究者の家族のために英語で教育が受けられる学校・医療サービス、全情報の英語化、海外の大学との協定締結を容易にする政策の導入

研究活動の情報提供に関しては7割以上（16名：72.7%）の回答者が効果的であるとしている。この結果は、3.1において、学生が大学選択時に重要視したこと、参考にした情報に関する答えが、研究の質、環境であったことを補完している。また、「静大教員の海外での学会や研究プロジェクトへの参加」と「ポストクのキャリアパス」が12名（54.5%）、「研究者の家族のサポート」も10名（45.5%）の支持を受けている。

3.2.2 学生の満足度と改善点についての考察

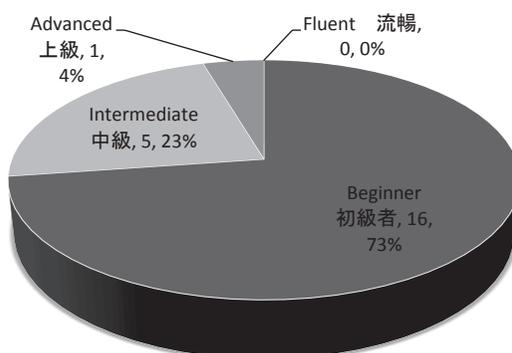
本調査のサンプル学生の静岡大学の博士課程に対する満足度は全般的に高く、特に研究環境、指導教員と生活環境等についての評価が良い。満足度を項目別に尋ねた質問だけでなく、満足の具体的な内容についてコメントを求めた質問においても、研究環境等、同様の観点に関して評価が高かった。確認された改善点は、日本人学生の英語力、日本人学生とのコミュニケーションの不足である。これは、複数の質問において指摘された問題点である。一方で指導教員の英語力やコミュニケーションに関しては、高く評価するコメントが多く、問題点はあげられていない。研究室の活動においては、学士、修士、博士課程の学生が協働で研究活動を進めるため、多くの研究室が基本的に日本語を使用している。研究仲間である日本人学生と協働関係を構築する際に、言語やコミュニケーションスキルが障壁になっている。異なる文化背景を持つ者間のコミュニケーションに影響するのは外国語能力だけでなく、異文化に対する考え方や態度である。研究室に外国人の博士生が在籍していることの効果を高めるには、学士、修士、博士課程を通して、日本人学生の英語力、特に会話等のコミュニケーション力を育成する教育機会の充実を図ることが求められる。

3.3 日本語能力とキャリア展望

本項目では、博士課程外国人留学生の使用言語、日本語力、卒業後のキャリア展望に関する回答をまとめ、学生の同分野での支援ニーズ等を考察する。

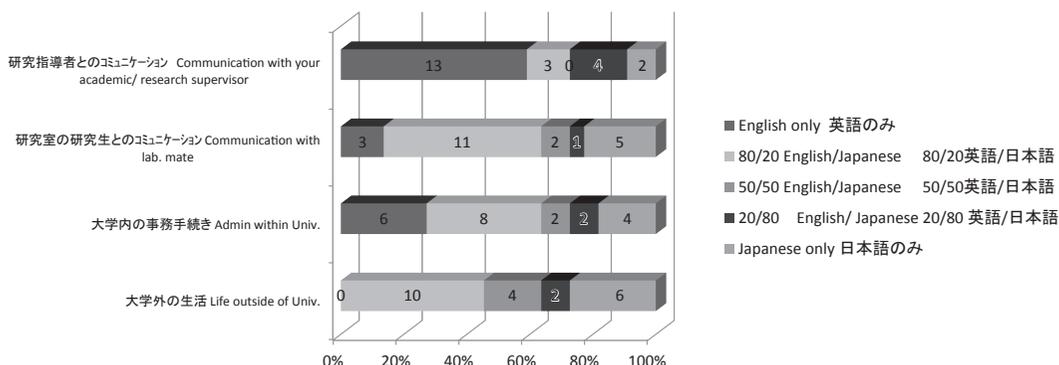
3.3.1 日本語能力とキャリア展望に関する調査結果

表3.3-1 日本語のレベル* Q14参照



博士課程は英語で教育をする体制が整っており、在籍する外国人留学生の多くは、日本語の初級者である。「大学で日本語の授業は受講していますか」(Q15参照)という質問に対しては、はい10名(45.5%)、いいえ12名(54.5%)という回答であり、日本語の初級者であるが、日本語の授業を受講していない学生が多い。これは、日本語能力を向上する機会がないまま博士課程を卒業する留学生が多いことを示唆している。「典型的な一日の研究時間」を尋ねた別の質問(Q19参照)の回答を見ると、学生が研究に費やす時間は平均で11時間であった(休憩等も含む)。一日のほとんどの時間を研究に費やしており、日本語の勉強にかける時間を確保しにくいという状況が推測される。

図3. 3-1 日常のコミュニケーションにおける英語と日本語の割合を教えてください。
How much of your communication is in English / Japanese? (Q16参照)



研究指導者とのコミュニケーションにおいては、過半数以上が英語のみを使用している。研究室の研究生とのコミュニケーションには、多くが英語と日本語を80/20の割合で利用している。表3. 3-1に見られるように博士課程の外国人留学生の7割以上が日本語の初級者であるため、基本的に英語でのコミュニケーションが中心の生活を送っていることがわかる。大学内の事務手続きにも、6割近くの学生が、英語と日本語を80/20の割合で使っている。これは、博士課程の事務組織が、英語による学生支援に対応できていることを示している。一方で、別質問の回答内に職員の英語力の不足と、多くの事務文書が日本語のみであることを問題視する回答があった。また、前述の表3. 2-2「より良く多くの研究者を海外から招くのに効果的だと思う」ことについて尋ねた質問において、その他のコメントに「全情報を英語化すべきである」という意見があった。Manakul. W (2008 ; 88) は、日本の大学において英語による教育・研究課程を導入する過程で、担当職員の英語力や情報の英語化が課題となっていることを指摘している。静岡大学においても、国際化を進めるにあたり、英語による学生支援と情報の英語化への取り組み強化は求められる。また、大学全体が国際化を推進するためには、これらの課題が、留学生の多い大学院博士課程の部局が局所的に対処をせざるを得ないものから、大学全体の課題として取り組み、支援されるものとなっていくことが望ましい。

表3. 3-3 日本語のレベルと将来的な日本での就業希望* Q14、34参照

日本語レベル	将来的に日本での就業を希望しますか。		
	Yes はい	No いいえ	Neutral どちらでもない
Beginner 初級者	7	4	5
Intermediate 中級	4	0	1
Advanced 上級	0	0	1
Fluent 流暢	0	0	0
	11	4	7
	50%	18%	32%

日本学生支援機構（2012）の「平成23年度私費外国人留学生生活実態調査」によれば、大学院博士課程の外国人留学生は55.2%が「日本において就職希望」、60.1%が「出身国において就職希望」（複数回答）となっている。上記の表3. 3-3の回答結果では、国費留学生が大多数であるが、日本学生支援機構の調査結果と類似している。

また表3. 3-3で半分以上が将来的に日本での就業を希望しているが、その大半が日本語の初級者である。日本の企業は、外国人留学生に高い日本語力を求める傾向にある（山田他2012、古本2010、JLPT2013）。こういった状況において、日本で就業を希望する博士課程外国人留学生の多くにとって、日本語能力が、就職先を獲得する上での障害となることが想定される。一方で、将来的に日本での就業を希望するかについて「どちらでもない」という学生が7名（31%）おり、研究生生活は英語のみで成り立っている中、日本での長期滞在と就業意思がなければ、日本語を学ぶインセンティブはあまり感じられないだろう。また「どちらでもない」という学生は、将来的なキャリアの場所を決めずに留学生生活を過ごしている。

表3. 3-2 静岡大学での滞在の後にどのような進路を考えていますか。(複数回答可) * Q36参照

	回答数	回答率
Research staff at research institutions 研究機関での研究職	14	66.7%
Academic staff at higher education institutions 高等教育機関での教員職	15	71.4%
Working for a private company 民間会社での仕事	4	19.0%
Working for the public sector 公共機関での仕事	2	9.5%

進路希望の内訳をみると、もっとも希望が多いのが高等教育機関での教員職で、次が研究機関での研究職である。民間会社での仕事を希望する者は2割以下にとどまる。日本で就業を希望する者11名の内、10名が教員職か研究職を望んでいる。前出の日本学生支援機構（2012）の「平成23年度私費外国人留学生生活実態調査」の博士課程の学生の「日本において就職希望」回答者の就職希望職種は、「学校などの教育」（62.8%）が最も多く、次いで、「調査研究」（51.7%）である。表3. 3-2の静岡大学の調査結果は、海外での就職

希望者も含めたものであるが、日本学生支援機構の調査結果と類似の数値となっている。

「ポストドクター等の雇用・進路に関する調査」(科学技術政策研究所2009)によると、2009年11月に教育、研究機関等に在籍した全国のポストドクター(15,220人)の内、2010年4月までに職種変更したものが14.6%(2,217人)で、そのうちの55.9%(1,239人)が大学教員となっている。つまり、全ポストドクターの内大学教員となったのは8%である。また、その他の研究職についているものも全ポストドクターの内の4%にすぎない。このような日本の大学教員及び研究職市場の状況においては、博士課程に在籍する外国人留学生が日本で大学教員もしくは研究職のキャリア展望を抱いても、実現が容易ではない状況である。

また、先に述べた日本語能力と就業機会の観点でいうと、日本の高等教育機関の多くは国際化に取り組みながらも、英語で組織運営をする体制にはなっていない。Whisted, C & Volet, S (2011) は、日本の大学が国際化を図るために大量の外国人教員の採用を進めるにもかかわらず、運営において、外国人教員との間の文化的な相互理解を怠り、外国人教員を運営の中心から疎外する傾向があることを指摘している。これは今後、日本の大学が取り組んでいくべき課題であるが、博士課程の留学生が将来的に日本の教育機関の大学の教員職を希望するのであれば、こうした現状を理解した上で、日本語能力や日本語コミュニケーションの理解の活用度について、自己判断をすることが必要となってくる。

表3. 3-3 静大における博士キャリア開発支援センターのポスドクとPhD学生向けのキャリア支援サービスについて知っていますか？(複数回答可) * Q38参照

	Doctoral course student 博士学生	Post-doctoral ポスドク	回答数	回答率
Yes, I have heard about them. はい。名前を聞いたことがあります。	12	1	13	59.1%
Yes, I have seen their website はい。ウェブサイトを見たことがあります。	1	1	2	9.1%
Yes, I have attended their seminars. はい。セミナーに参加したことがあります。	0	0	0	0.0%
Yes, I have registered with them. はい。登録をしています。	0	0	0	0.0%
Yes, I am using their Career support services. はい。キャリア支援サービスを受けています。	0	0	0	0.0%
No, I don't. いいえ、知りません。	3	2	5	22.7%
No, but I would like to consider using their support in future. 知りませんでした。今後は支援サポートを受けることを検討したいと思います。	0	2	2	9.1%
No, I don't need them. いいえ、必要を感じていません。	1	0	1	4.5%

静岡大学の博士学生、ポスドク向けのキャリア支援については、59.1%と半数以上の学生が名前を聞いたことがあると答えている。にもかかわらずキャリア支援サービスに調査実施時点で「登録している」と答えたものはいない。また、ポスドクの回答者5名の内、4

名が同支援を知らなかった。博士学生、ポスドク向けのキャリア支援サービスが、日本語中心の情報配信であるため、外国人のポスドクに行き渡っていない可能性がある。英語による支援の整備と、英語での情報提供が必要である。国際交流センター、大学院組織、各研究室等の様々なチャンネルから、同キャリア支援サービスを案内していくことで、ニーズのある学生に支援が届きやすい態勢を作ることができるだろう。

3. 3. 2 日本語能力とキャリア展望に関する考察

3. 2で確認された、日本人の学生とのコミュニケーションの障壁は、日本人学生の英語力の低さだけでなく、留学生の日本語力の低さも原因の一端である。博士課程の学生にとっては研究が最優先課題であるため、日本語学習に時間を確保するのが難しいという側面があるだろう。しかし、研究室の学生とのコミュニケーションに難しさを感じる学生が多いこと、日本での滞在と就業を希望する学生が半数を占めることを考えると、日本語力の向上が、外国人留学生の研究生活の総合的な充実につながり、長期的なキャリア設計においてもプラスに働く可能性がある。日本語能力の有無が、日本に長期滞在する上で重要になること、将来の職業選択の幅に大きく関わってくることを理解した上で、日本語授業の受講期間を検討する指導教員と留学生が増えることが望ましい。また、将来の就業の地について考えが定まっていない留学生が3割程度いる。これをキャリア意識の未発達の表れとするのであれば、卒業後のキャリア形成に向けた準備ができていない状態とは言い難い。後述になるが、表3. 4-2において、半数以上が博士学生向けの英語でのキャリアガイダンスを希望している。静岡大学が輩出する博士人材の4割近くが留学生である今、博士・ポスドクキャリア支援は、外国人留学生をどう支援するかという課題に向き合わざるを得ない。

3. 4 支援ニーズ

3. 4. 1 支援ニーズに関する調査結果

表3. 4-1 下記の国際交流センターのサポートやイベントの中で、利用したことがあるもの、近いうちに利用する予定のものはどれですか。(複数回答可) * Q37参照

	回答数	回答率
Japanese language classes 日本語の授業	19	86.4%
Tutor support for international students 留学生チューター制度	9	40.9%
Counseling for International students 留学生カウンセリング	7	31.8%
Visa Consulting Service ビザコンサルティングサービス	4	18.2%
Social events with the local community group, school or company 地域、学校、企業との交流イベント	4	18.2%
Volunteer supporters for International students 留学生支援ボランティア	3	13.6%
Students social events in university 学内での学生との交流イベント	2	9.1%
	48	

最も利用度が高いのは、日本語の授業で、次にチューター制度、留学生カウンセリングが続く。3. 3に前述のように、「大学で日本語の授業は受講していますか」という質問に対しての、はい10名（45.5%）、いいえ12名（54.5%）という回答と合わせると、日本語の授業については、大半の学生が一度は受講するが、継続しない学生が多いことがわかる。国際交流センターが組織的に継続的に運営しているチューター制度、カウンセリング等は3-4割とある程度利用率があるが、その他はまだ利用者が2割に満たないため、支援の提供方法やイベントの機会を増やすこと等も検討できるだろう。

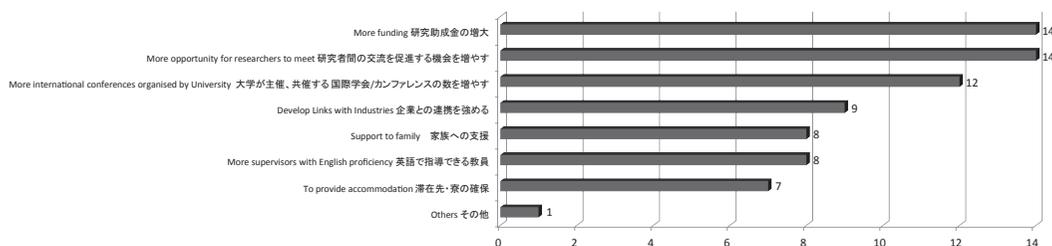
表3. 4-2 どのような支援を、あれば利用したいと思いますか（複数回答可）。Which support or opportunity would you like to use if it is available? (Q30参照)

Networking event with researcher and academics on campus 研究者、教員との交流イベント	57.1%	12
Networking event with PhD students 博士学生との交流イベント	52.4%	11
Career guidance for PhD students in English 博士学生向けの英語でのキャリアガイダンス	52.4%	11
Joint forum/presentation conference for the whole of Shizuoka Univ. Phd Students and researchers 静岡大学全体の博士学生・研究者の合同研究発表会／フォーラム	52.4%	11
List of research topics of PhD students and academics in University 博士学生、教員の研究テーマリスト	38.1%	8
Facebook community for PhD students 博士学生のフェイスブックコミュニティ	19.0%	4

交流に関連する項目の希望者が比較的に多く、学士学生間の交流においては、フェイスブック等のオンライン上のものよりも、交流イベントのほうが利用希望度が高い。博士課程の留学生は、履修する授業数もきわめて少なく、主に研究室単位での活動をしているため、研究者間の交流機会等の横のつながりを求めている可能性がある。

図3. 4-1 静大の研究環境を向上させるのに当てはまるのはどれですか？（複数回答可）

* Q33参照



研究助成金の増大と研究者間の交流機会の促進が、14名（63%）と同等数の回答を得ている。また、大学が国際学会等の開催数を増やすことも、半分以上の学生が研究環境の向上につながると考えている。

3. 4. 2 支援ニーズに関する考察

以上の結果から、博士課程の外国人留学生は、大学内の教員、学生との交流の機会を希

望する者が多く、そういった機会は静大の研究環境の向上に役立つと考えていることがわかった。この結果は、「3. 2学生満足度と改善点」の項目において、留学生が日本人学生と、もっとコミュニケーションを持ちたいと考えていることとつながる面がある。学生の異文化理解の促進や外国語でのコミュニケーション能力の向上には、行事やレクリエーション等の交流の機会も効果的である。学内の交流の機会を大学が増やすと同時に、関連するイベント等を行う学内の活動グループに対して、支援をすることも検討できるであろう。

4. 調査結果と今後の対策

以上の調査結果を踏まえて、博士課程の外国人留学生の受け入れ態勢を充実させるために、下記の対策が有効であると考ええる。

1) 学生募集、リクルーティング活動の強化

- オンライン上の英語の研究情報の充実
 - 各研究室のウェブサイトの英語による研究情報の更新の支援
- 教員、在籍外国人留学生を通じた学生募集活動の強化
 - 学生や教員の海外における学生募集活動展開の推進（研究目的の海外渡航時の学生募集活動等）
 - 海外共同研究者からの学生推薦体制の強化
- 海外の大学との研究ネットワークの強化
 - 国際交流センターと大学院教育組織との連携による研究ネットワーク、協定校等の整備（博士課程複数学位制度（DDP）協定校の拡大等）

2) 留学・研究環境の改善

- 外国人留学生と日本人留学生の間のコミュニケーションの促進
 - 学士、修士、博士課程を通じた日本人学生の英語コミュニケーション能力育成
 - 日本人学生と外国人留学生の交流イベントの開催、イベント実施グループ支援
- 外国人留学生の日本語能力の向上
 - 日本語授業受講の重要性と意義に関する留学生と指導教官の理解の促進
- 情報の英語化（事務・学生支援・生活情報等）
- 博士学生・教員・研究者間の交流イベントの実施
- 英語によるポスドク、博士学生のキャリア支援

今後、外国人留学生と彼らに関わる教職員へのフォローアップ調査を通して、これらの項目の有効性と実現可能性についての検証と、定量調査ではとらえきれない個別のケースについての情報を得ることが望ましい。

5. おわりに

本調査結果は、静岡大学の博士課程における外国人留学生の大学に対する満足度が高い

ことを示している。特に、研究の質、環境、指導教員の支援等が高く支持されている。博士課程の外国人留学生の受け入れ数が過去10年間に2.6倍増と急増した中で、学生の期待に応える教育と支援が行われていることは、研究指導、学生支援に関わる教職員の成果とも言えるだろう。一方で、日本人学生とのコミュニケーションや、英語による情報の不足等が改善点として浮かび上がった。原因のひとつは、日本人および外国人留学生の語学力、コミュニケーション能力であるが、背景には、外国人留学生の割合の少ない学士・修士課程と、半分近くが外国人留学生である博士課程という大学内の国際化のアンバランスと、急激に増える外国人留学生への対応が局所的に進んだという状況がある。今後、博士課程の外国人留学生の受け入れ態勢の整備をさらに進めるのであれば、その成果が学士、修士課程の国際化を進める上でも役立つように、学士課程、修士課程においても、情報と経験が共有されることが望ましい。大学全体が国際化に取り組み、連携を進めることで、大学全体の国際化の効率をあげ、各課程の外国人留学生とその担当教職員が孤立することなく、より良い学習・研究環境の構築につながるであろう。

参考文献

- 株式会社日本総合研究所（2011）「博士課程修了者の進路実態に関する調査研究報告書」（オンライン），入手先〈http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1307208_1.pdf〉，（参照2013-7-16）
- 国立大学協会（2013）「国立大学における教育の国際化の更なる推進について」（オンライン），入手先〈<http://www.janu.jp/news/files/20130308-y-020.pdf>〉，（参照2013-12-2）
- 静岡大学企画部広報室（2013）『国立大学法人静岡大学概要2013』
- 静岡大学企画部広報室『国立大学法人静岡大学概要』2003年～2011年度版（オンライン），入手先〈<http://www.shizuoka.ac.jp/outline/magazine/magazine/index.html>〉，（参照2013-10-23）。
- 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）（2012）『平成23年度外国人留学生在籍状況調査結果』（オンライン），入手先〈http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data11.html〉，（参照2013-11-23）
- 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）（2012）『平成23年度私費外国人留学生生活実態調査概要』pp.45-47（オンライン），入手先〈<http://www.jasso.go.jp/scholarship/ryujchosa23.html>〉，（参照2013-11-21）。
- 古本裕子（2010）「日本企業への就職を目指す留学生の直面する問題について」『名古屋学院大学論集言語・文化篇』第22巻第1号（2010年10月）
- 文部科学省 科学技術政策研究所第1調査研究グループ齋藤史、鐘ヶ江靖史、三須敏幸、茶山秀一（2011）『ポストドクター等の雇用・進路に関する調査—大学・公的研究機関への全数調査（2009年度実績）—』（オンライン），入手先〈<http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/mat202j/pdf/mat202j.pdf>〉，（参照2013-11-20）。
- 山田明子、平田実西、頭由紀子（2012）「外国人留学生の日本企業への就職に関する意識調査」『九州大学留学生センター紀要』，2012，第20号，pp11-33

- Werawan. M (2008) 'Challenges and Opportunities Brought About by Introducing an English-medium Program' 『工学教育』 59 (6), pp29-34, 2011-11-20
- Whitsed. C & Volet. S (2011) 'Fostering the Intercultural Dimensions of Internationalisation in Higher Education: Metaphors and Challenges in the Japanese Context', *Journal of Studies in International Education*, May 2011 vol. 15 no. 2 pp146-170

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

17. What problems did you encounter when you arrived at Shizuoka Univ.? 静岡大入学時に困ったことは何ですか?

	困った	Problematic	あまり困らなかった so problematic	Not 全く困らなかった	All fine
Registration 入学・登録手続き	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Communication with supervisor, other students 指導 教員や他の学生とのコミュニケーション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Communication with admin staff 事務職員とのコミ ュニケーション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Communication with Japanese students 日本人学生と のコミュニケーション	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Setting-up research environment 研究体制の整備	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Financial/economical factors 経済面での困難	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Health problems 健康上の問題	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Food 食事	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Understanding of religious needs 宗教的に必要なこと への理解の不足	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Looking for accommodation 滞在先探し	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Support to family 家族への支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Kids Education 子どもの教育	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Others その他

Your research 研究について

18. Please tell us your main area of the research. 主な研究領域を教えてください。

19. What is the typical schedule of your research day? 典型的な一日の研究時間を教えてください。

Start From (i.e. 8:00am) 開始時刻

Finish At (i.e. 20:00 pm) 終了時刻

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

20. Who do you do research with? (Check all that apply) 共同研究の相手としてあてはまるものにチェックを入れてください。(複数回答可)

- Research supervisor of your lab. 研究室の研究指導者
- Research fellow of your lab. 研究室の同僚
- Research supervisor of your own country 母国の研究指導者
- Research fellow of your own country 母国の研究仲間
- Company 企業
- Research institute in Japan 日本の研究所
- Research institute abroad 海外の研究所
- None なし

Please give name of your research collaboration institution when it is possible 共同研究相手の具体名を可能であれば教えてください。

21. What funds do you receive for your research?(Check all that apply) どのような研究資金源がありますか?(複数回答可)

- Funds of the laboratory you belong to 所属している研究室の研究費
- Grants in Aid for Scientific Research 科研費
- Funds from public institution 公的機関からの資金
- Funds from private company/ private research institution 民間企業・研究機関からの研究助成金
- Donation from private company/ institution 民間からの寄付
- Private Funding 私費

Please specify name of funding you receive 受けている研究助成金等を具体的に教えてください。

22. Choose the information you used to decide where to research (Check all that apply) 留学・研究拠点を決める時に重要視した情報は何か。(複数回答可)

- Quality of research 研究の質
- Research environment 研究環境
- Research funding 研究助成金
- Ranking of university 大学のランキング
- Partner University 協定校
- DDP or not ダブルディグリープログラムがあるかどうか
- Good academic/research supervisor/ fellow 良い指導教員/研究仲間がいるか
- Know someone at the University 知人がいるか
- Living environment/ Condition 生活環境
- Good career path after graduation 卒業後の進路、就職に有利かどうか

Specify if there is any other (具体的に)

23. Why did you choose Japan to do research? (Check all that apply) 日本を研究の地に選んだ理由は何か。(複数回答可)

- Funding 奨学金・研究費等の資金援助
- Facility, Environment 研究施設、環境
- Level of research in Japan 研究レベルの高さ
- Connection with your home country university/institute 母国の大学・研究所とのつながり
- Know someone who is already doing research at the University 知人が既に研究/在籍をしていた
- Interest in Japanese culture 日本文化への興味
- Living environment, Safety 居住環境、治安の良さ

Others その他

24. Why did you choose Shizuoka University? (Check all that apply) 静岡大学を選んだ理由は何か。(複数回答可)

- High quality of research 研究の質が高いため
- Good environment for research 研究環境が整っているため
- There is a Laboratory which does related field of research as yours 自分と関連する分野の研究室があったため
- Gained scholarship 奨学金がとれたため
- Other funding available その他の資金援助があったため
- Recommendation from supervisors/ tutors 指導教員等からのすすめ
- Partnership with your university at home 母国の大学と協定校であるため
- Enrolled in a Master's degree at Shizuoka Univ. 静大の修士課程に在籍していたため
- Someone you know was already there 知り合いが既にいたため
- Position opening (Postdoctoral, research assistant,..) ポスドク、研究助手等の募集があったため
- Location 場所、都市

Others その他

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

*22. Choose the information you used to decide where to research (Check all that apply) 留学・研究拠点を決める時に重要視した情報は何か。(複数回答可)

- Quality of research 研究の質
- Research environment 研究環境
- Research funding 研究助成金
- Ranking of university 大学のランキング
- Partner University 協定校
- DDP or not ダブルディグリープログラムがあるかどうか
- Good academic/research supervisor/ fellow 良い指導教員/研究仲間がいるか
- Know someone at the University 知人がいるか
- Living environment/ Condition 生活環境
- Good career path after graduation 卒業後の進路、就職に有利かどうか

Specify if there is any other (具体的に)

23. Why did you choose Japan to do research? (Check all that apply) 日本を研究の地に選んだ理由は何か。(複数回答可)

- Funding 奨学金・研究費等の資金援助
- Facility, Environment 研究施設、環境
- Level of research in Japan 研究レベルの高さ
- Connection with your home country university/institute 母国の大学・研究所とのつながり
- Know someone who is already doing research at the University 知人が既に研究/在籍をしていた
- Interest in Japanese culture 日本文化への興味
- Living environment, Safety 居住環境、治安の良さ

Others その他

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

*24. Why did you choose Shizuoka University? (Check all that apply) 静岡大学を選んだ理由は何か。(複数回答可)

- High quality of research 研究の質が高いため
- Good environment for research 研究環境が整っているため
- There is a Laboratory which does related field of research as yours 自分と関連する分野の研究室があったため
- Gained scholarship 奨学金がとれたため
- Other funding available その他の資金援助があったため
- Recommendation from supervisors/ tutors 指導教員等からのすすめ
- Partnership with your university at home 母国の大学と協定校であるため
- Enrolled in a Master's degree at Shizuoka Univ. 静大の修士課程に在籍していたため
- Someone you know was already there 知り合いが既にいたため
- Position opening (Postdoctoral, research assistant,..) ポスドク、研究助手等の募集があったため
- Location 場所、都市

Others その他

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

25. How did you find/ meet your academic supervisor/ research collaborator? (Check all that apply) あなたが指導教員/共同研究者を見つけた/知り合ったきっかけは何ですか?(複数回答可)

Introduction by Academic/Research Supervisor of your previous university/institute 母国の指導教員・研究統括者からの紹介

Introduction by other researcher/student who was already studying/researching in Shizuoka University 既に静大で研究/留学をしている研究者、学生からの紹介

Introduction by other researcher/students outside of Shizuoka university 静大以外の研究者、学生からの紹介

Journal articles of Shizuoka university academic/ research staff 静岡大学教員の論文

Academic society/research conference 学会

Information on Shizuoka Univ. Website 静岡大学のウェブサイトの情報

Information from Japanese research support organization (JSPS etc.) bodies 日本の研究支援機構(JSPS等)の情報

Others その他

26. Please rate your experiences in Shizuoka Univ. according to the following categories. 静岡大学での生活・研究の満足度を下記の観点から評価してください。

	Satisfied 満足	Mostly satisfied ほぼ満足	Neutral 普通	Slightly dissatisfied やや不満	Very dissatisfied 不満
Overall 全般	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Research Outcome 研究の成果	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Research Environment 研究環境	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Relationship with your academic supervisor 指導教員との関係	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Networking with researchers 研究者とのネットワーキング	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
International environment 国際的な環境	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Living condition 居住環境	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

27. Please write the reasons for your satisfaction/ dissatisfaction. 上記で答えた項目の中から満足度の高いもの、低いものに関して、具体的な理由を教えてください。

28. What was the best thing and the worst thing about coming to Shizuoka Univ.? 静岡大学に来たことに関する最も良かったことと悪かったことを教えてください。

The best thing 最も良かったこと

The worst thing 最も悪かったこと

29. What would encourage more and better foreign researchers to come to Shizuoka Univ.? (Check all that apply) より良く多くの研究者を海外から招くに効果的だと思うのは次のうちのどれですか。(複数回答可)

More information on research activities in Shizuoka Univ. 静大における研究活動の情報提供

More information on research condition/environment in Shizuoka Univ. 静大における研究条件・環境に関する具体的な情報提供

More information about funds for research 研究資金に関する情報提供

Information on the links with industries 産学連携の情報

More involvement of Shizuoka Univ. academics to join conference/project overseas 静大教員の海外での学会や研究プロジェクトへの参加

Care for the researcher's family (Registration, school, ...) 研究者の家族のサポート

Career path provided for Postdoctoral ポストドクのキャリアパス

Others その他

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

30. Which support or opportunity would you like to use if it is available? (Check all that apply) どのような支援を、あれば利用したいと思えますか(複数回答可)。

Networking event with PhD students 博士学生との交流イベント

Networking event with researcher and academics on campus 研究者、教員との交流イベント

List of research topics of PhD students and academics in University 博士学生、教員の研究テーマリスト

Career guidance for PhD students in English 博士学生向けの英語でのキャリアガイダンス

Facebook community for PhD students 博士学生のフェイスブックコミュニティ

Joint forum/ presentation conference for the whole of Shizuoka Univ. PhD Students and researchers 静岡大学全体の博士学生・研究者の合同研究発表会/フォーラム

Others その他

31. Please evaluate the Japanese graduate students at your lab. according to the following factors. 研究室の日本人大学院生に関する評価を教えてください。

	Excellent 素晴らしい	Good 良い	Fair 満足できる	Poor 少し劣る	Very poor 乏しい
Specialist knowledge 専門知識	<input type="radio"/>				
Research skills 研究スキル	<input type="radio"/>				
Communication skills コミュニケーションスキル	<input type="radio"/>				
English language proficiency 英語力	<input type="radio"/>				
Respect for different cultures 異文化理解	<input type="radio"/>				
Social Skills 社交性	<input type="radio"/>				
Team work チームワーク力	<input type="radio"/>				

32. What outcome did you get from your research in Shizuoka Univ.? 静岡大学での研究からどのような成果がありましたか

	1-3	4-6	7-9	More than 10
Research publications 論文	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Presentations at conferences 学会発表	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Joint research projects 共同研究プロジェクト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Funding for research (Number of funding sources) 研究資金資金源の数	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

33. What would make the research environment/ condition better at Shizuoka Univ.? (Check all that apply) 静大の研究環境を向上させるのに当てはまるのはどれですか?(複数回答可)

More opportunity for researchers to meet 研究者間の交流を促進する機会を増やす

More international conferences organised by University 大学が主催、共催する国際学会/カンファレンスの数を増やす

More supervisors with English proficiency 英語で指導できる教員

More funding 研究助成金の増大

Develop Links with Industries 企業との連携を強める

To provide accommodation 滞在先・寮の確保

Support to family 家族への支援

Others その他

Support for Doctoral students & researchers 博士学生・研究者への支援について

34. Do you hope to stay in Japan after your research at Shizuoka Univ.? 静岡大学滞在後も日本での滞在を希望しますか?

Yes はい

No いいえ

Neutral どちらでもない

35. Would you like to work in Japan in future? 将来的に日本での就業を希望しますか。

Yes はい

No いいえ

Neutral どちらでもない

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

36. What kind of career do you think you will have after your research at Shizuoka University? (Check all that apply) 静岡大学での滞在の後どのような進路を考えていますか。(複数回答可)

- Research staff at research institutions 研究機関での研究職
- Academic staff at higher education institutions 高等教育機関での教員職
- Working for a private company 民間会社での仕事
- Working for the public sector 公共機関での仕事

Others その他

37. Q. Which support / event of International Center have you used before / going to use? (Check all that apply) 下記の国際交流センターのサポートやイベントの中で、利用したことがあるもの、近いうちを利用する予定のものはどれですか。(複数回答可)

- Japanese language classes 日本語の授業
- Counseling for International students 留学生カウンセリング
- Volunteer supporters for International students 留学生支援ボランティア
- Visa Consulting Service ビザコンサルティングサービス
- Students social events in university 学内での学生との交流イベント
- Social events with the local community group, school or company 地域、学校、企業との交流イベント
- Tutor support for international students 留学生チューター制度

Others その他 (具体的に)

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

38. Are you aware of career support service provided for PhD & Postdoctoral students at the Center for Doctoral Career Development, Shizuoka University? (Check all that apply) 静大における博士キャリア開発支援センターのポストドクとPhD学生向けのキャリア支援サービスについて知っていますか？(複数回答可)

- Yes, I have heard about them. はい。名前を聞いたことがあります。
- Yes, I have seen their website はい。ウェブサイトを見たことがあります。
- Yes, I have attended their seminars. はい。セミナーに参加したことがあります。
- Yes, I have registered with them. はい。登録をしています。
- Yes, I am using their Career support services. はい。キャリア支援サービスを受けています。
- No, I don't. いいえ、知りません。
- No, but I would like to consider using their support in future. 知りませんが、今後は支援サポートを受けることを検討したいと思います。
- No, I don't need them. いいえ、必要を感じていません。

Others その他

39. How well do you know about 'Shizuoka University Charter for Gender Equality' or 'Shizuoka University Action Plan for Gender Equality'? あなたは、本学が策定した「男女共同参画憲章」「男女共同参画行動計画」「次世代育成支援一般事業主行動計画(第4期)」をどの程度、知っていますか。

- I know about it very well. 内容までよく知っている
- I have heard about it. 名前は聞いたことがある
- I don't know at all. まったく知らない

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

40. Which support service for families, would you like to use? (Choose all you wish to use) 次の制度の中で、あなたが利用を考えている制度、又は利用したい制度はどれですか、該当する制度すべてに✓を付けてください。

- Research assistance system 研究支援員制度
- Mentor system for new university professor メンター制度
- Gender equality advising service 男女共同参画相談
- Childcare support system for society participation 学会参加時保育支援制度
- Option to work part-time 短時間勤務制度
- Child care on campus (Hamamatsu) 学童保育所(浜松キャンパス)
- Granny leave 介護休暇
- Short-time Child care on campus (Shizuoka) 児童の一時預かり(静岡キャンパス)
- Maternity/Paternity leave 育児休業・育児休業

41. What kind of obstacles make it more difficult for you to balance family, research and work life? (Check all that apply. Write the detail in the box when you choose 'others')

家庭と研究または仕事を両立するうえで直面している困難には、どのようなものがありますか(該当するものすべてに✓を付けてください。「その他」の方は、その内容を記入してください)。

- Japanese language 日本語
- Japanese culture 日本の文化
- Administration in city office 市役所などでの手続き
- Childcare 子育て(育児)
- Spouse's (Partner's) job 配偶者(パートナー)の仕事
- People who you can talk to when you are in trouble 困ったときの相談相手
- Lack of information 情報不足
- Others その他

Others (Please specify) その他(具体的に)

International PhD Students & Researchers Feedback Survey (June)

42. What kind of solution can you think of, in order to remove some of the obstacles for the balance work and life you listed in the question above? 上記の質問で回答した、「家庭と研究または仕事を両立するうえで直面している困難」を解決するためには、何が必要だと思いますか。

The support needs of International Doctoral students in a Japanese University: A research survey

RYAN, Yuko

This is a research survey, which investigates the level of support for International Doctoral Degree students at a Japanese University. The results show that the student's overall satisfaction level regarding the University is high, especially in regard to the quality and environment of the research, and the support from their research supervisors. However, their research activities are hampered by their struggle to communicate with Japanese students at their laboratory, as most of them are Japanese beginners and Japanese student's English communication skills are limited. This problem is exacerbated by the fact that in Japan the process of internationalisation of Bachelor and Master's degree course tends to lag behind that of the the Doctoral degree courses. Currently, English is the medium of instruction for Doctoral degree courses only. Based on the findings of the survey, the author makes some recommendations for the improvement of the overall environment for international Doctoral students. For example there should be more information available online in English about the research activities of the University, we should encourage academic supervisors and existing international students to participate more in recruiting new students, create opportunities for more social events and language lessons to enhance the communication in between Japanese and International students, and finally we should provide greater support for students in English, for example career guidance.